

日本は昔から水害が非常に多い国であり、被害を受けるごとに法改正や災害対策を行ってきた。そして、水害をもたらすような豪雨は今後さらに頻発化・激甚化すると予測されるため、豪雨災害への対策は必要不可欠であるといえる。そこで本研究では、過去と現代の水害対策を調査し、今後の水害対策について明らかにすることを試みた。その結果、現代の水害対策の多くは河川水を河川内に抑え込む治水が多いが、過去の水害対策は主に水を遊水させる治水が行われていた。また、過去と現代の治水を同時に行う流域治水が国内のいくつかの河川で実施されていた。今後、気候変動等による豪雨災害の激甚化を踏まえると水害に対して柔軟に対応が可能な流域治水への転換が望まれる。